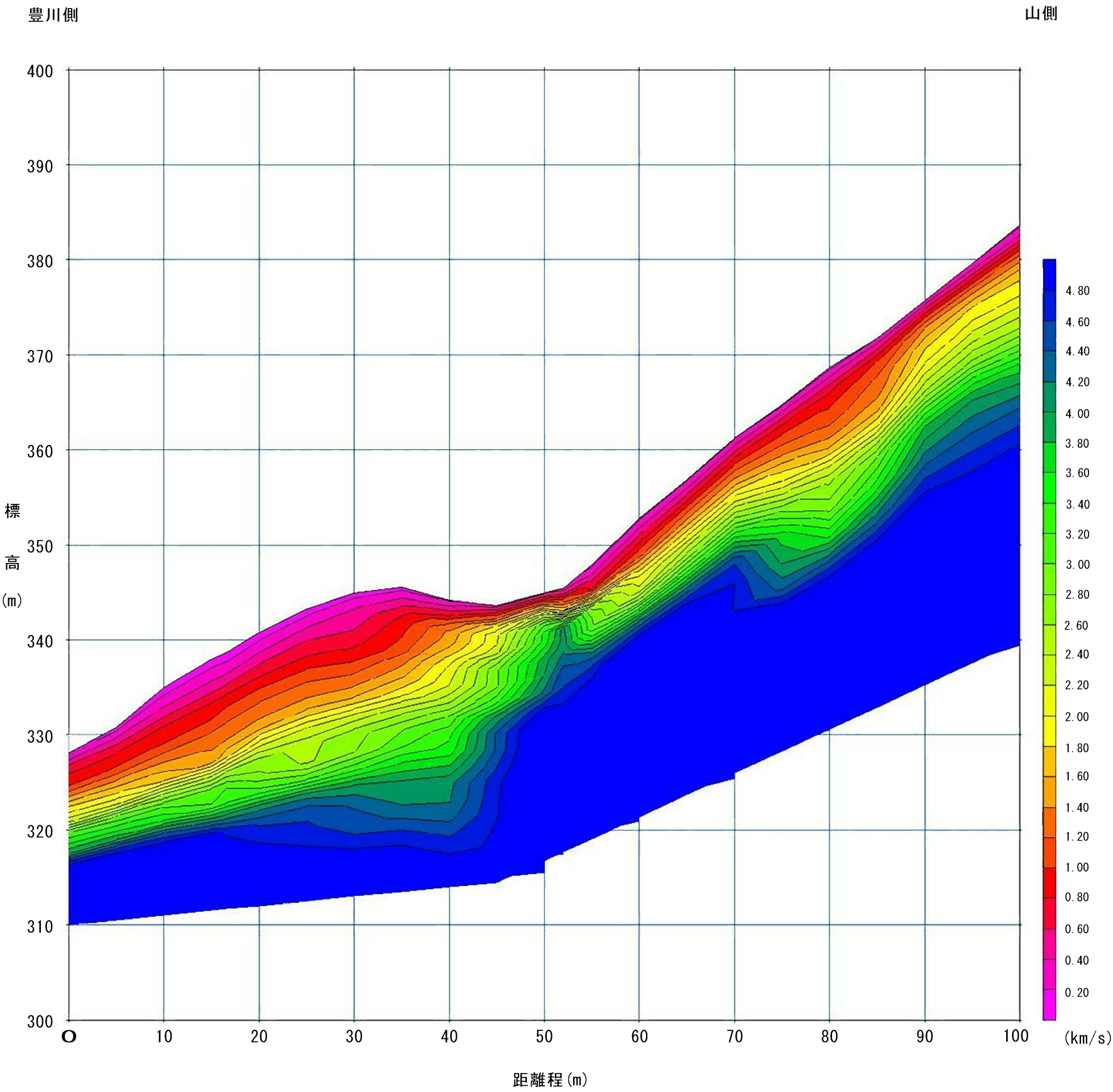
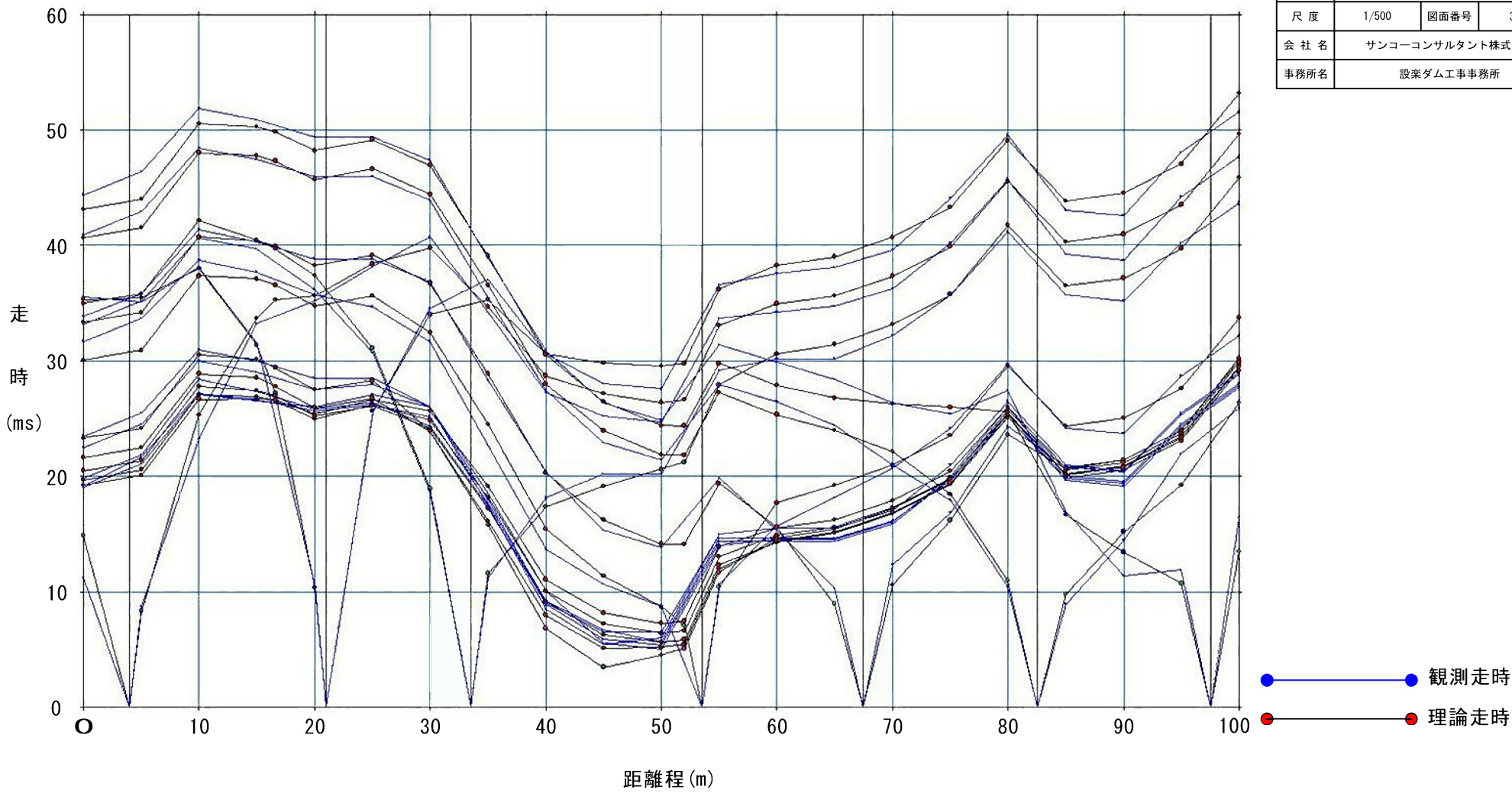
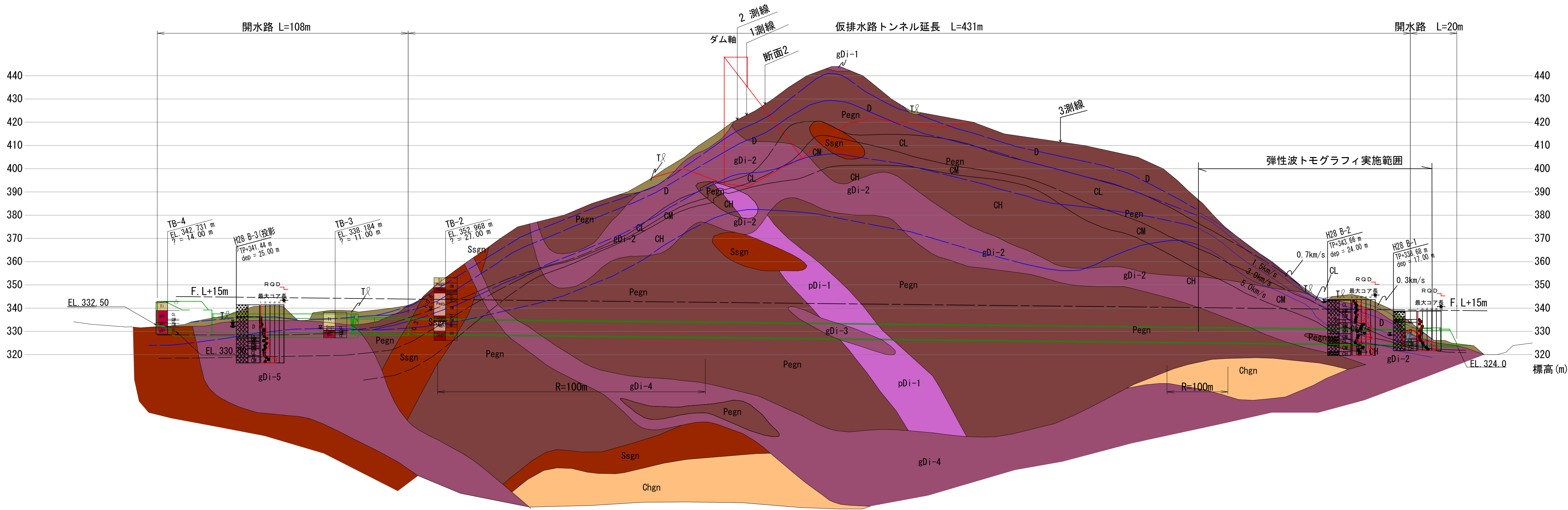


業 務 名	平成28年度 設案ダム転流工関連地質調査業務		
図 面 名	弾性波トモグラフィ 走時曲線及び解析断面図		
年 月	平成 28 年 8 月		
尺 度	1/500	図面番号	3 / 3
会 社 名	サンコーコンサルタント株式会社		
事務所名	設案ダム工事事務所		



転流工縦断図 S=1/1000

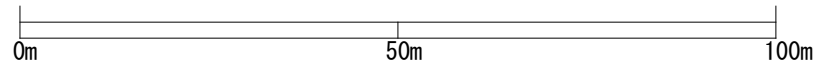


凡 例

〈地質区分〉

- 崖 堆 積 物
- Pegn 泥 質 片 麻 岩
- Ssgn 砂 質 片 麻 岩
- gDi 等 粒 状 閃 緑 岩
- pDi 斑 状 閃 緑 岩

- 速度層境界線
- 速度層境界線(推定)
- 岩級区分(推定)



測 点	No. 0	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5	No. 6	No. 7	No. 8	No. 9	No. 10	No. 11	No. 12	No. 13	No. 14	No. 15	No. 16	No. 17	No. 18	No. 19	No. 20	No. 21	No. 22	No. 23	No. 24	No. 25	No. 26	No. 27
距 離	0	20	40	60	80	100	120	140	160	180	200	220	240	260	280	300	320	340	360	380	400	420	440	460	480	500	520	540
計画高	333.202	342.914																										
地盤高			340.270	329.652		335.000	329.424		339.038	329.216		339.911	326.996		344.534	326.561		344.534	326.561		344.534	326.561		344.534	326.561		344.534	326.561
土被り																												
地 質	Ssgn	gDi-5		Pegn		Ssgn	Pegn	gDi-4		Pegn		gDi-3		pDi-1	Pegn		gDi-3		Pegn	gDi-3		Pegn		gDi-3		T		
弾性波速度 (km/s) (F.L+15m) ※			[2.2～3.2]				[0.5～0.9]	[1.0～1.6]		[2.2～3.2]				[5.0～5.2]						5.0		3.0		1.5		0.3～0.7		
地山区分 (γ=2.4)			開水路区間		坑口 I		D I	C II						C I				C I		C II		D I		坑口 I		開水路区間		
地山強度比			—				9	23～35						32～74				82～124		94		24		—				
岩級区分			D～CL		D～CL		CL～CM	CM～CH						CH				CH		CM～CH		CM		D～CL		—		
記 事	・表層部に崖堆積物が、その下に主に等粒状閃緑岩が分布する。豊川側では一部区間で砂質片麻岩が、トンネル坑口付近では泥質片麻岩が分布する。 ・強風化～風化部であり、D～CL級を主体とする岩盤である。亀裂が発達している。閃緑岩は風化が顕著で軟質化しており、一部ではマサ化している。 ・砂質片麻岩が分布する。 ・地質構造の走向は、トンネル軸と60°程度で斜交し、豊川側へ40～60°程度で傾斜する。 ・風化部であり、亀裂が発達し、緩んでいる。亀裂沿いに粘土化しているところもある。 ・砂質片麻岩～泥質片麻岩が分布する。 ・砂質片麻岩と泥質片麻岩の境界はトンネル軸と60°程度で斜交し、豊川側へ40～60°程度で傾斜する。 ・風化部であり、亀裂が発達していると予想される。所々で亀裂が開口に緩んでいると推定される。 ・湧水の可能性は低い。 ・泥質片麻岩～等粒状閃緑岩が分布する。 ・閃緑岩は泥質片麻岩に貫入しており、トンネル軸と30～45°程度で斜交し、山側へ40～60°で傾斜する。 ・亀裂は少なく、RODが概ね70%以上のCM～CH級の岩盤である。閃緑岩の一部ではB級の岩盤もある。 ・顕著な湧水の可能性は低い。 ・泥質片麻岩を主体とし、トンネル中央部付近で等粒状閃緑岩と斑状閃緑岩の貫入岩を通過する。 ・トンネルルートは地質構造とはほぼ平行となり、貫入岩である閃緑岩は山側へ40～60°程度で傾斜する。 ・泥質片麻岩は非常に堅硬でCM～CH級が主体で、亀裂も少ない。亀裂沿いでは薄い粘土が狭在したり、角礫状を呈するところもある。斑状閃緑岩はCH～B級を主体とする非常に堅硬な岩盤であり、亀裂も密着している。本区間両端に分布する等粒状閃緑岩の亀裂沿いには変質や角礫状に脆弱なところがある。 ・顕著な湧水の可能性は低い。 ・等粒状閃緑岩が分布し、一部で泥質片麻岩が出現する。 ・トンネルルートと地質構造はほぼ平行となり、貫入岩である閃緑岩は山側へ40～60°程度で傾斜する。 ・泥質片麻岩は非常に堅硬でCM～CH級の岩盤で、亀裂沿いでは褐色化し、一部で変質している。泥質片麻岩は、CL～CM級で亀裂が発達している。 ・等粒状閃緑岩が分布する。 ・トンネルルートと地質構造はほぼ平行となり、貫入岩である閃緑岩は山側へ40～60°程度で傾斜する。 ・D級岩盤は軟質化している。CL～CM級の岩盤では、亀裂が発達し、亀裂沿いに褐色化著しく軟質化している。 ・トンネル上部の沢には流水が認められており、湧水は比較的多い。 ・等粒状閃緑岩が分布する。 ・強風化部であり、主にハンマーで容易に砕けるほど軟質化しているD級の岩盤が分布する。																											

※ []の数字は既往調査結果による推定値

業 務 名	平成28年度 設楽ダム転流工関連地質調査業務		
図 面 名	転流工地質縦断図		
年 月	平成 28 年 8 月		
尺 度	1/1000	図面番号	2 / 3
会 社 名	サンコーコンサルタント株式会社		
事務所名	設楽ダム工事事務所		

